

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践  
および専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究

在宅医療における終末期過活動せん妄の体系的治療に関する研究

研究分担者：浜野淳 筑波大学 医学医療系 緩和医療学  
研究協力者：阿部晃子 横浜市立大学附属病院 緩和医療科  
川越正平 あおぞら診療所  
住谷智恵子 あおぞら診療所  
竹田雄馬 わかたけクリニック

研究要旨：在宅医療における終末期過活動せん妄に対する体系的治療開発に向け、2022年度に実施した事前調査の結果を元にアルゴリズム原案を作成した。2023年度は外部評価のための専門家パネルを選出し、パネルとのディスカッションを繰り返した。在宅医療ならではの療養環境や薬剤選択を考慮し、アルゴリズム案と治療レジメンの他、せん妄の原因や家族への説明、非薬物療法などの追記について検討・修正を繰り返し、完成させた。

#### A. 研究目的

これまでに終末期過活動せん妄に対しては入院下での体系的治療（アルゴリズム）開発が行われてきたが、在宅医療における薬剤選択や対応については個々の訪問診療医に任されているのが現状である。そこで、在宅医療における終末期過活動せん妄に対するアルゴリズム開発を行うこととした。

#### B. 研究方法

2022年10月、在宅医療における終末期せん妄に対し使用する薬剤や投与量について事前調査を実施し、その結果を参考に研究班でアルゴリズム原案を作成した。2023年度に入り、外部評価のための専門団体を選定、各団体へ代表者選出を依頼した。専門家パネルは、日本在宅医療連合学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本緩和医療薬学会、日本がん看護学会、日本サイコオンコロジー学会、日本緩和医療学会の各団体から1名ずつ選出された。2023年12月にパネルとのディスカッションを行った。

##### （倫理面への配慮）

事前調査として行った研究は、国立がん研究センターの研究倫理委員会より「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の適用範囲に該当しないため倫理審査不要と判断された。

#### C. 研究結果

パネルとのディスカッションでは、在宅環境での薬物療法の留意点だけでなく、せん妄の診断ツールや家族の支援方法の付記、在宅療養が継続できるかの判断、などが現場での対応力を向上させるとの意見を得た。これらの意見を元にアルゴリズム案の修正作業を繰り返し、アルゴリズム本体と治療レジメンの他に、せん妄の原因や家族への説明、非薬物療法などの情報を追加し、完成させた。

#### D. 考察

在宅医療における終末期過活動せん妄に対しては、入院下とは異なる薬剤選択が行われる可能性があり、主介護者である家族が非医療者であることを配慮した支援・教育が重要であると考えられる。本アルゴリズムが在宅医療で実装されることはせん妄診療に慣れない医療者や家族にとって有用な可能性がある。

#### E. 結論

在宅医療における終末期過活動せん妄に対するアルゴリズムを作成した。現在、作成したアルゴリズムの実施可能性を調査するための観察研究の準備を行っている。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

事前調査の結果に関し、日本在宅医療連合学会誌への投稿作業を進めている。

##### 2. 学会発表

2024年6月14日、15日開催の第29回日本緩和医療学会学術大会/第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会にて発表予定。

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし